
独眼竜戦記～異説伊達政宗～

w i s h

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

独眼竜戦記／異説伊達政宗／

【Zコード】

N9110A

【作者名】

wish

【あらすじ】

奥州の麒麟児・伊達政宗彼の波乱に満ちた半生と天下取りに明け暮れた日々を綴る異説話です

第一話～始まつの死～（前書き）

前半は史実に則りますが・・・あるターニングポイントで仮想に移りますを”容赦ください

第一話～始まりの死～

1636年（寛永13年）5月江戸 米沢藩邸

今まさに病床につき、70歳で世を去ろうとしている傑物がいた。

最後の戦国大名であり米沢藩主・伊達藤次郎政宗である。

そこには政宗の信奉者で時の三代目将軍・徳川家光も見舞いに訪れていた。

かつては独眼竜と恐れられていた奥州の霸王も既に老いさらばえていて病にその身を犯されていた。

「政宗殿！！しつかりなされよ！！」

家光が病床についている政宗に必死に語りかけ続けた、その途端彼は突然身を起こして襖の方を指さした。

「おお！！小十郎！！迎えにきあつたか！！」

政宗が老いてやせ細った手を必死に伸ばして叫び声を上げた、家光は政宗の側で控えていた重臣・伊達成実に小十郎とは何者かと聞いた。

「小十郎とは御殿の軍師であらせられた亡き片倉小十郎景綱殿です」成実が手ぬぐいで涙を拭いて家光に言った、この話を聞いた直後政宗は息を引き取った・・・。

死は始まりに過ぎない、かつてどこかの誰かがそう言つた・・・そつ伊達藤次郎政宗にとつてはこれが始まりに過ぎずまた混沌とした

時代の始まりに過ぎなかつた・・・。

第一話～奥州時代～（前書き）

更新遅れてしませんでした。叱咤激励していくださった皆様に感謝します。

第一話～奥州時代～

伊達藤次郎政宗、1567年8月3日生まれ。

父は伊達氏16代目当主・伊達輝宗。てるむね母は最上義光の妹・義姫。よしひめその2人の間に伊達家の跡継ぎとして生まれたのが伊達藤次郎政宗。
幼名・梵天丸。ぼんてんまる

1571年、疱瘡（天然痘）に罹り右目を失明する。それ以降、母親の最上義姫に姿が醜いと疎まれ、弟の伊達小次郎だけが母の愛情を注がれたとされる。

母の愛を受けられなかつた政宗は臨済宗の虎哉宗乙禪師による厳しい教育が始められ、徐々に変わり始めた。

生涯の腹心とも呼べる片倉小十郎景綱や伊達成実とも心通わせ次第に明るくなつた。

そして1577年に若干10歳で元服し、1579年（当時12歳）かたぐらいじゅうねんに生涯の伴侣と呼べる仙道の大名で三春城主田村清顕の娘愛姫を正室とした。

またその2年後に隣接する相馬氏との合戦で初陣を迎える、見事勝利を収めた。

だが、1584年に18歳で家督を相続したことから悲劇が始まつた。

1585年に父が畠山義継に殺害されてしまったのである。

そして寝返るはずであつた大内定綱が裏切り、政宗は苦境に立たされる。

だが政宗は諦めなかつた。この心意氣こそが伊達氏の天下統一の野望を捨てなかつた漢の精神であつた。

まず政宗を裏切つた大内定綱討伐を敢行した。

この折に降伏を認めないなどの徹底した肅清（撫で切り）を行うなど、奥州の霸者たる非道な一面も見せた。

その後、父の初七日法要を済ますと早くも怨敵・畠山氏の一本松城を包囲。畠山氏救出のため集結した、佐竹氏・蘆名氏など反伊達連合軍と安達郡人取橋で戦つた。

数の上で五分の一以下の戦力であつた伊達軍は重臣・鬼庭左月斎を討たれ窮地に立つものの辛くも持ち堪え、辛勝を収めた。

そして1589年には会津の蘆名義広・佐竹氏の連合軍を摺上原の戦いで破り、黒川城を陥落させ蘆名氏を滅ぼし会津地方を支配した。さらに兵を須賀川へ進め一階堂氏を滅ぼして奥州南部の大部分を支配下に置き、150万石の領主になつた。

こうして政宗は名実ともに奥州の霸者となつたのである。

第三話～豊臣政権時代～（前書き）

次回より異説たる所以が明らかになります。

第二話～豊臣政権時代～

政宗が奥州に覇を唱えた頃中央では豊臣秀吉が織田信長の統一事業を継承しており、1590年の秀吉の奥州仕置では政宗は小田原へ参陣して秀吉に臣従を誓い、本領を安堵される（ただし、会津領攻略は秀吉の令に反した行為であるとされ、会津領などは没収）。

この時に小田原攻めに遅参したという理由で秀吉が政宗に切腹を命じようとしたし事实上監禁するも、政宗は千利休の茶の指導を受けたいと、詰問に来た豊臣家の重臣・前田利家らに申し出、更に政宗は全軍に白装束を着せ、街を練り歩き、秀吉への忠誠を誓つたように見せた。

これらの行為は秀吉の派手好みの性格を知つての行いと伝えられている。

また参陣前には自身の身を転覆させようとしている母を止めるため弟の伊達小次郎に対し自害を命じた。

それに連座し、生母・義姫も実家の兄・最上義光をのもとへと（現在の山形）追放した。

翌1591年には蒲生氏郷とともに葛西大崎一揆を平定するが、政宗自身が葛西大崎一揆を策略していた嫌疑をかけられる。

これは蒲生氏郷が「政宗が書いた」とされる一揆勢宛の書状を幾つか入手した事に端を発した。

政宗は上洛し、一揆扇動の書状は偽物であると秀吉に弁明し許され

る。

この時、証拠の文書を突きつけられた際証拠文書の花押に針の穴がない事を理由に言い逃れを行い、それまで送られた他の文書との比較で証拠文書のみに穴がなかつたため、やり過ごす事が出来た。

しかし米沢城から玉造郡岩出山城に転封となり58万石、後に加増されて60万石となる。

1592年には秀吉の朝鮮出兵にも従軍して朝鮮半島へ渡る。また、普請事業なども行い豊臣政権下で名を轟かせた。

また豊臣政権下では五大老である徳川家康に接近し、1599年には嫡女・五郎八姫を家康の6男である松平忠輝と婚約させる。

またこんな逸話がある。

朝鮮出兵時に政宗が伊達家の部隊にあつらえさせた戦装束は大変に華美なもので、上洛の道中において盛んに巷間の噂となり、これ以来派手な装いを好み着こなす人を指して「伊達者だても」と呼ぶようになつたと伝えられる。

これは、派手好みの秀吉が気に入るような戦装束を自分の部隊に着させることで本陣に近い配置を狙い、損害を受けやすい最前线への配置を避けるよう計算したものと言われている。

こうした優れた才覚で豊臣政権下を生き延びた政宗はいよいよ天へ昇る龍になる為に運命の分岐点に立つ事となる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9110a/>

独眼竜戦記～異説伊達政宗～

2010年10月9日01時06分発行